

リスク工学専攻後期 昼夜開講プログラム

リスク・後期昼夜開講プログラム・専門基礎科目[共通](必修)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
02CF001	リスク工学後期特別演習	2	2.0	1 - 3	通年	随時	総合 B0110	リスク工学専攻専任教員、津田 和彦、吉田 健一、倉橋 節也、木野 泰伸	各々の研究に関するプレゼンテーションを行う。また、プレゼンテーション技術の取得と向上を図る。	必修 オンライン(オンデマンド型) オンライン(同時双方向型) 対面
02CF002	リスク工学後期特別研究	3	6.0	1 - 3	通年	随時		リスク工学専攻専任教員、津田 和彦、吉田 健一、倉橋 節也、木野 泰伸	リスク工学の各分野に関する具体的研究テーマを設定させ、その研究指導を行う。また、専門分野のレビューについて外国語によるプレゼンテーションを行わせる。	必修 オンライン(同時双方向型) 対面
02CF041	リスク工学後期インターンシップA	3	1.0	1 - 3	通年	随時		古川 宏、リスク工学専攻専任教員	企業、官公庁の研究所、非営利団体などの現場における就労体験を通じて自らの能力涵養、適性の客観評価を図るとともに、将来の進路決定に役立てる。	レジリエンス研究教育推進コンソーシアムの参画機関をはじめとする教員が認めた機関が対象 オンライン(オンデマンド型)
02CF042	リスク工学後期インターンシップB	3	2.0	1 - 3	通年	随時		古川 宏、リスク工学専攻専任教員	企業、官公庁の研究所、非営利団体などの現場における就労体験を通じて自らの能力涵養、適性の客観評価を図るとともに、将来の進路決定に役立てる。	レジリエンス研究教育推進コンソーシアムの参画機関をはじめとする教員が認めた機関が対象 オンライン(オンデマンド型)

リスク・後期昼夜開講プログラム・専門科目[分野共通]

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
02CF102	リスク・ケーススタディ研究	3	1.0	1 - 3	通年	随時		リスク工学専攻専任教員、津田 和彦、吉田 健一、倉橋 節也、木野 泰伸	リスクに関わるケーススタディを行うことにより、課題発見、情報・データの収集と解析、多面的評価、成果発表にいたる一連の過程を体験する。学生 自主プロジェクトとして推進する。	オンライン(同時双方向型) 対面
02CF103	リスク工学後期プロジェクト研究	3	2.0	1 - 3	通年	随時		リスク工学専攻専任教員、津田 和彦、吉田 健一、倉橋 節也、木野 泰伸	リスク工学に関するプロジェクトを独自に提案し、調査・分析に基づいて問題の構造およびプロセスの解明とメカニズムの分析を行い、問題解決のための 方策を提言する。	オンライン(同時双方向型) 対面
02CF201	情報検索特論	1	1.0	1 - 3	春C	応談		津田 和彦	インターネットの発達などにより、アクセスできる情報は爆発的に増加している。この莫大な情報の中から、キーワード検索のみで必要な情報を探し出すことは困難になりつつある。このような背景のもと、同義語や類義語、シソーラスなどを用いた概念検索や、個人の検索履歴を用いた意図理解検索、世の中で良く検索されているキーワードを活用した予測検索など、高度な検索技術が開発されつつある。本講義では、これらの高度な検索技術について紹介すると共に、その要素技術および適用分野について紹介する。これらの事例を参考にすることで、情報検索のアルゴリズムについて理解する。	西暦奇数年度開講。 02FA238、0BDM224と同一。
02CF202	知的ドキュメント管理論	1	1.0	1 - 3					氾濫するドキュメント情報を、知識とするには「必要とする情報」を漏れなく高速に閲覧できるように管理する必要がある。ドキュメントの中にはテキスト情報だけでなく、図や表など様々な情報が記載されている。さらにドキュメントには、作成者や作成日、閲覧履歴など多くの属性情報が付与されている場合が多い。本講義では、これらの情報を総合的に捉え、目的に応じたドキュメントを漏れなく高速に検索できるように管理する手法について議論すると共に、その限界や問題点などについても考察する。これにより、ドキュメントを効果的に利用するための管理方法を習得する。	西暦偶数年度開講。 02FA239、0BDM225と同一。
02CF204	情報マネジメント	4	1.0	1 - 3					現代の情報処理技術がWWWのような新しい価値を創出しようとしている一方、迷惑メールやインターネットウイルス等のマイナス面が新たなマイナスの社会要因を作りつつある。本講義では、このような社会背景の中、問題となる各種概念および関連技術に関する論文を題材に、論文内容に関する議論を行う。議論の目標は、論文が研究分野にもたらす貢献に留まらず、各論文の査読プロセスなどにも立ち入りながら、査読の仕方、査読への対応の仕方などについて理解する。	西暦偶数年度開講。 02FA243、0BDM228と同一。

02CF205	複雑システム論	1	1.0	1 - 3	秋B	土5,6	倉橋 節也	流行現象、流通・取引関係、組織運営、伝染病など、人や組織に起因する社会のさまざまな関係は、複雑システムの視点から捉えることができる。これらを分析する手法として、社会ネットワーク分析や複雑ネットワーク分析がある。また、ネットワークモデルを利用したシミュレーション手法として、社会シミュレーションがある。本講義では、これらの理論的背景とモデリング手法を講義するとともに、実際の現象に対して分析を試みることを通して、複雑システムのモデル化の理論と手法を習得する。	西暦奇数年度開講。 02FA246, 0BDM229と同一。
02CF206	知能情報システム	1	1.0	1 - 3				複雑な社会や経営の問題を扱うためには、知能情報システムのモデル化が必要となる。本講義では、人工知能をベースとしたマルチエージェント技術に基づくシミュレーション&ゲーミング手法を紹介する。これはボトムアップ型のアプローチであり、ソフトウェアエージェントと人間を含むそれぞれの主体が、シンプルなゲーミング環境の下で、自律的・適応的な意思決定を通して、複雑なシステムを実験的に再現することができる。本講義ではゲーム設計を含め、グループワークを通して自律的に参加することで、知能情報システムのモデル化について理解する。	西暦偶数年度開講。 02FA247, 0BD5005と同一。
02CF207	プロジェクト・マネジメント論	1	1.0	1 - 3	春B	金7	木野 泰伸	企業は変革を成し遂げるために、各種プロジェクトを実施する。プロジェクトを確実に成功させるためには、ビジョンの明確化、計画の立案、作業の実施、状況のモニタリングとコントロールの各段階において体系化されたマネジメントプロセスを実施することが大切である。本講義では、その手法として、WBS、PERT、EVM、リスクマネジメント、品質マネジメント、見積り技法等を習得する。それらの技法は、産業分野や地域を超え標準化されたものである。	西暦奇数年度開講。 02FA234, 0BDM222と同一。
02CF208	システムデザイン論	1	1.0	1 - 3				世の中には、社会システム、経済システム、情報システムなど、物理的、概念的要素が集まることによって構成されるシステムが多く存在する。それらシステムは、人類によって設計される。良い設計を行うことにより、社会に貢献することができる。本講義では、モデル化技法と、システム設計を行うための技法について習得する。なお、良い設計を行うためには、ニーズ、要件を理解し、優れた概念モデルを作成する必要があるため、文章データから概念モデルを作成する技法についても合わせて習得する。	西暦偶数年度開講。 02FA275, 0BDM223と同一。
02CF907	リスク工学後期特別講義(ビジネスリスク)	1	1.0	1	夏季休業中	集中	東 弘樹, 小野 吉昭, 関口 昭如, 中川 慧, 永井 秀幸, 倉橋 節也, 津田 和彦, 吉田 健一, 木野 泰伸	有職社会人であり博士の学位を取得した人を招き、仕事と研究を両立する利点とリスクを、具体的な事例を講述いただくと共に、ディスカッションを通じて、レジリエンスの立場から、その対策などを検討する。	授業実施の方法については、決定次第manabaにて周知予定。 0BLC502と同時実施。 オンライン(同時双方向型)